

製品名: PRMT1 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe87087**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:200-1:500,ICC/IF 1:500-1:2000,IP 1:50-1:100
分子量	Calculated MW:43 kDa; Observed MW:43 kDa

抗原情報

遺伝子名	PRMT1
別名	ANM1; HCP1; IR1B4; HRMT1L2
遺伝子ID	3276
SwissProt ID	Q99873
免疫原	ヒト PRMT1 の合成ペプチド

背景

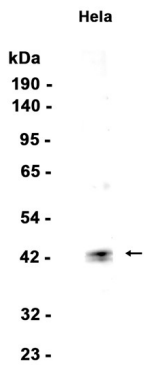
この遺伝子は、タンパク質アルギニン N-メチルトランスフェラーゼ（PRMT）ファミリーのメンバーをコードしています。PRMTに

よる標的タンパク質の翻訳後修飾は、多くの生物学的プロセスにおいて重要な制御的役割を果たしており、PRMTはS-アデノシル-L-メチオニンから末端グアニジノ窒素原子へメチル基を転移させることでアルギニン残基をメチル化します。コードされているタンパク質はI型PRMTであり、細胞内のアルギニンメチル化活性の大部分を担っています。この遺伝子の発現増加は、多くの種類の癌において役割を果たしている可能性があります。この遺伝子には、複数のアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが観察されており、この遺伝子の偽遺伝子は5番染色体長腕に位置しています。[RefSeq 提供、2011年12月]

研究分野

-

画像データ



PRMT1 ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用した HeLa 細胞抽出物のウェスタンブロット分析。